

車税等は必ず政府が之を支拂ふべきである。其の他東京市内に在る外國大使館等に對しても日本政府が東京市に對して特別の代償金を交付せざる以上は、宜しく直接に市税を賦課すべきである。然らずんば東京市は是等の方面に對する公共的施設は、他の市民の經濟的利用と密接なる關係のある場所より後とにすべきである。例へば日本橋、京橋等の道路の完成した後に、丸の内に着手すべきである。要するに道路の改良の必要を考ふるに當つて、私は市民が適當な負擔を忌避せざると共に、道路と街路の合理的發達に就て十分の了解を持ち、他方に政府は東京市の道路、その他の公共事業の費用に關して援助すべき理由のあるものは之を援助し負擔すべき理由のあるものは當然之を負擔するの覺悟に出でなければ、東京市の道路の如きは十年一日の如く、市民の雜談と新聞紙上に於ける攻撃的目的となるのみであつて、遂に改良の實を擧げることは出來得まいと思ふ。(完)

自動車交通と道路

早稻田大學教授 島 田 孝一

一 お互に依頼心を去れ

震災後の我國に於ては、旅客貨物の輸送の爲に自動車を使用する程度は著しく多くなつた。其の自動車の交通状態と道路との關係はどう云ふ風にしたならば圓滿に進めることが出来るかを攻究する

のも亦必要なことではないかと思ふ。

この點から見るならば次の三點について注意を拂はなければならぬ。第一には道路そのもの、第二には道路の上を走る車輛第三には道路と車輛との相互の關係を如何にしたならば圓満にする事が出来るかと云ふ點である。單に道路だけ考へても、亦車輛だけ考へてもそれで道路交通が圓満に行はれるとは思はない、過去に於ける道路と車輛との關係を見るならば特に車輛方面に於て夫の作製なり改善なりに多大の努力が現はれて居るのを見ることが出来るが、道路の建設なり維持なりについては非常に劣つて居る様に思はれるのは極めて遺憾なことである。道路についてはその幅員も狭いし、勾配も急だし、路面の鋪装なども一向整はないし、概して其の建設維持ともに怠り勝ちである。東京市内であらうが郊外であらうが、日本一般何れの地方に行つて見ても、外國の道路と比較對照して見ると、詢に見苦しい有様であるが、震災後激増して行く自動車交通に對しては、尙更に道路の設備は非常な不完全であつて、此の儘ではどうも困つたことゝ考へる、然らば人々の注意は常に車輛方面にのみ注がれて道路が之に伴ふ發達をしないかと云へば、元來道路は多くの場合公共の機關であつて私有のものでないから、誰か建設してくれるであらう、誰か維持して呉れるだらうと云ふお互の依頼心が存在することは争はれないが、車輛は之に反して多くの場合私有であるから各人が之に利害關係を保つことが特に多く、自ら進で完全な車輛を運轉しようと望めばこそ道路の發達以上に車輛の進歩が生ずるのではなからうかと思ふ、従つて道路にも相當な注意を拂つて居なければ必ず道路の狀態が車輛の狀態より劣るのを忘れてはならぬ。

本來道路上の旅客交通、貨物交通の成功不成功は單に使用せられる車輛の如何によるばかりでなく道路の良否によるることは云ふ迄もないことである。故に單に道路だけの問題ではない、又單に車輛だけの問題でもない。道路も完全に建設せられ維持せられると共に適當な車輛がその上に運轉せられて始めて道路交通の圓滿が期せられるのであると思ふ。

二 良い道路は必ず土地を發展させる

古來内外の爲政者が道路政策に心を用ひたことはその例が決して少くない。これ良道を建設維持することが多種多様な利益を齎すことを知つて居たればこそであると思ふ。良い道路が出来るならば、之を經濟的見地について見てもその附近の地價が騰貴する。その他の不動産の價格が昇騰する。或は更に運賃が低落して物價が經濟的に下つて来る又社會的に見ても孤立の社會は少くなり土地が發展するに伴つて生活の程度が高まつて来て生活を享樂することが出来るであらう。或は兒童が學校に通學する便宜を得て、義務教育の就學の割合は増して来る、或は軍事的見地よりしても食糧、彈藥、軍器の輸送を容易くする爲めに、その利益は決して少しとはしない。斯う云ふ各種の利益があればこそ、相當智能のある人は此の道路を開くことに努力を拂つたと考へられる。

三 自動車の活動を妨害される時代

道路の必要なり利益なりが右の如くでありとするならば、如何なる種類の道路を建設しなければな

らないか、如何なる場所に建設しなければならないか、何人が建設費を負擔しなければならないか、建設された道路は何人が維持して行かなければならぬか、之等の諸問題は道路政策上常に忘れてはならない。特に自動車が非常に發達して來た今日この點に注意を要すると思ふ。然るに自動車の使用が盛にならうとする時に於て自動車は鐵道の競争者であると云ふ様な考へから極力之を排斥せんとする時代があらはれることが少くない。合衆國に於ても、自動車發達の初期に於ては、鐵道業者が自動車を憎んで、己れの營業、即ち旅客の交通なり貨物の輸送なりを此の方に奪はれてしまふと云ふので、何かにつけて自動車を妨害しどうかして自動車が活動することを防がうとした傾向の少くなかつ時代がある。今日我國の事情を見ると、恰度斯う云ふ過渡期に當つて居るのではなからうか。自動車が各地に殖えて、地方鐵道の附近に活動する、それが爲めに旅客、貨物の取扱ひの分量が減少して来るからと云ふので、地方鐵道の經營者は監督官廳に向つて、競爭線を新しく許可しない様にと迫つて居るやうな事も聽いて居る、この考へは誤つて居ると思ふ。既に合衆國に於て一般が認めて居る様に、自動車の活動は鐵道の利益を増すものであると思はなければならない。自動車の使用によつて、鐵道は終點に於ける貨物の混亂を防止し、小口貨物の輸送を減少せしめ、又短距離の貨物輸送を制限し得る等利益を受くる點は決して少くない。然し我國に於ては、今日は未だそれ迄進歩せずして、鐵道業者が自動車活動の妨害を試みて居る状態ではなからうか。

四 道路はどう云ふ風に造るか

そこでどう云ふ風な道路を造らなければならんかと云ふ問題に返つてこれは矢張り其の地方の産業的の發展の程度に基いて如何なる道路を建設するかと云ふ事を定めなければならぬ。例へば或る地方は、極く短距離に亘つてのみ地方的に貨物又は旅客を運搬する所であれば、それに適するやうな道路を建設する必要がある、又長距離に亘つて貨物輸送を必要とする地方であるならば、長距離を聯絡し得るやうに造る必要が起る、現在未だ適當な道路を有して居ない地方には、勿論簡単でも宜いから早く建設する必要がある、又道路は有つて居るが完全なものが欲しいと云ふ所ならば、更により良い道路を建設する必要が起る。或は都會地で言へば各方面から見て其の必要を充すに足るだけの道路はどうしても必要である。或は社會的活動を便利にする爲め、或は社交を愉快ならしむる爲め、或は娛樂用に自動車を走らせる爲めとかの點も考がへなければならないと思ふ、而も之等の目的を達する道路を如何に建設するかと云ふ問題になれば時と場合とに應じてその形式を變化せしめる必要のあるのを見れる。人口稠密な所であつて、車馬の往來烈しい、又一方在來の道路だけであつては澤山に現れて来る貨物の交通をはかることが出來ない場合は、並行の道路を造ることも必要であらう、すべて成るべく曲線を避けて直線に造つて往來の便宜をはかるのも一方法であらう、又車馬の輻輳するする所であれば環状線の道路を造りそれも必要ならば二重又は三重に造ることになるであらう、又特に重い荷物を運ぶ自動車の現はれる所であれば、其の構造を非常に堅牢にして、重量の大きな貨物自動車が通つても震動が少いやうにしなければならないであらう、或は更に大きな都市を中心として郊外との聯絡上相當の道路を設ける、各方面から觀察して行けばいろいろな造り方がありはしないか。

更に是等の道路の監理については、或は中央政府が直接にこれに當る部分、各府縣のこれに任する部分、各町村の負擔する部分、それより法規の命ずる所に従つて其の責任を有つ譯てあるから、各々其の部分々々に力を入れて完全なものにして行かなければならぬ。

五 交通調査機関の必要

既に一言した如く道路を中心にして圓満な交通狀態を期する爲には道路のみ完全になつても充分でない。又車輛の改良發達のみあつても望まれない。完全な道路及びこれに適合する車輛を必要とすることは云ふ迄もない。従つてこの目的を達する爲には先づ現在の道路の上に動くところの交通の分量なり、その貨客の性質なりを調査して後適當な改良なり建設なりを行ふべきであると思ふ。茲に即ち交通調査の必要を見るので、調査事項としては一定の時間の間に於て、其の道路の上を動くところの車輛數、是等の車輛が一定時間内に行走する距離、使用せられる車輛の種類一年の中何れの季節に特に貨客の往來がはけしいか、或は車輛の積載量、速力、目的地等の交通狀態を詳しく調査して、それに基いて道路の規模を極めて行く必要がある。合衆國に於ける調査の結果を見ると、概して自動車の使用の烈しいのは毎年六月中旬から十月中旬まで、其の期間は車輛が道路を使用する程度が非常に多い。是に反して十月中旬から翌年の夏の初め頃までは道路を使ふ程度が割合に少ない。従つて季節に依つて交通の分量の増減があるから交通量の最も多い時を標準にして規模を定める必要がある。更に又一日の中でも貨客の往來の程度は非常に異つて居る。即ち朝夕の通勤時刻には非常に交通量が増加し

而も殆ど同一の方向に向うものの多いと云ふ點なども考慮の中に入れなければならない。又一週間の内で何曜日には何々附近に自動車が非常に多く現はれて來るとか、或は日曜日にはどう變化するかと云ふ調査をして、其の結果に基いて道路の建設なり維持修繕なりの基礎を置くことにしたい。之が爲に交通の調査點とも云ふべきものを定めて、前述の如き道路交通の特徴を數字の上、又は圖の上に現はして置いて、やがて建設すべき道路の基礎にするのは極めて重要なことであると思ふ。然る後に之等の調査を以て道路の建設、維持、改良等の問題を解決せんとするならば決して困難は伴はないと思ふ。(完)

